

令和8年度 京都市立元町小学校経営方針

学校教育目標

よく聴き、よく考えて学びながら積極的に行動できる子どもの育成

～主体的に聴き、対話を通して学びを深める元町っ子～

【育成を目指す資質・能力】 「聴く力」 「問題解決力」

【目指す子ども像】

- ◎「も」:もっと学びたいと思える子ども(確かな学力)
- ◎「と」:ともだちを大切にしたいと思える子ども(豊かな心)
- ◎「ま」:まいにち笑顔で過ごしたいと思える子ども(健やかな体)
- ◎「ち」:ちゃんと最後まで話が聴ける子ども(育成を目指す資質・能力)

【目指す学校像】 「笑顔の登校・満足の下校」

- ◎明日も行きたいと思える安心感のある学校
- ◎子ども・教職員ともに学校生活すべてにおいて学び合える学校
- ◎家庭・地域と様々なところで連携や協働を意識できる一体感のある学校

【目指す教職員像】

- ◎子どもに寄り添いながら一人一人を大切にしたいと思える教職員
- ◎子どもとともに過ごしながら自らも学んでいきたいと思える教職員
- ◎コンプライアンスを意識しながら自らを高めていきたいと思える教職員

【目指す子ども像について（「も」「と」「ま」「ち」を意識しながら学校生活を送れるように）】

◎「も」…もっと学びたいと思える子ども（確かな学力）

- ・授業での約束や学び方をきちんと身につけ、教材や指導計画を意識しながら各教科・領域で必要とされる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。
- ・GIGA スクール構想に基づきながら iPad 端末の積極的な活用や研究主題を意識した授業改善を通して、日々の授業と家庭学習との連動を意識させるとともに、子どもたちの自学自習の習慣化を図る。

◎「と」…ともだちを大切にしたいと思える子ども（豊かな心）

- ・互いのよさを認め合い、子どもたちが協力・協働する活動を学習や特別活動等に意識的に取り入れることで自己肯定感や自己有用感を高め、子ども同士のつながりをしっかりと支援していく。
- ・自分から進んであいさつや「さん」づけなどを徹底するとともに、子ども同士が互いに尊重し合いながら望ましい人間関係を築けるよう個別最適な指導や支援に複数の教職員で関わりながら努めていく。

◎「ま」…まいにち笑顔で過ごしたいと思える子ども（健やかな体）

- ・命の大切さや健康的に過ごすことの意義を認識できるように、食育や性教育、情報モラル教育などを計画的に実施し、キャリアデザインも活用しながら自分も友達も笑顔で過ごせるようにする。
- ・ねらいを意識した避難訓練の実施や安全ノートを活用した学習などを通して、子どもが規則正しい生活習慣や危険予知などを意識し、子ども自身が安全に学校生活を送れるようにする。

◎「ち」…ちゃんと最後まで話が聴ける子ども（身につけたい資質・能力）

- ・単元や授業の導入でのしかけを意識し、子どもが興味・関心を抱くような問題意識を大切にしながら学年や発達段階に応じて ICT やツール等を活用し、聴くことを大切にした対話重視の授業を心がける。
- ・「めあて」から「まとめ」「ふりかえり」までの基本的な学習過程を単に実践するだけでなく、発問の工夫やゆさぶり、話し合い活動など子どもの思考を意識しながら「主体的・対話的で深い学び」を目指す。

【目指す学校像について】

◎「明日も行きたいと思える安心感のある学校」

- ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識できるように、学校行事や児童会活動などの取組にも積極的に参加し、喜びや感動、気づきなどを共有する。
- ・「子どもファースト」の理念のもと、学校生活すべてにおいて子どもたちが安心して教育活動ができるように、子どもの声に積極的に耳を傾けてさまざまな面からチャレンジしようとする気持ちを支援する。

◎「子ども・教職員ともに学校生活すべてにおいて学び合える学校」

- ・普段の学習活動だけでなく、学校行事や縦割り活動など特別活動でも学ぶことがあることを実感できるように指導しながら寄り添うことで、子どもの確かな見取りや学習意欲の喚起につなげる。
- ・生き方探究パスポートの活用や子どものキャリアデザインにつながるような活動を積極的に取り入れ、子どもが相手の話を最後まで聞くことを意識することで、育てたい資質・能力「聞く力」を高める。

◎「家庭・地域とさまざまなところで連携や協働を意識できる一体感のある学校」

- ・各家庭と教職員とが子どものことを中心に連絡を密に行い、家庭と学校とがしっかりと連携を取ることで子どもたち一人一人を徹底的に大切にするという姿勢を教職員自ら示していく。
- ・全校遠足や全校道徳など子どもが中心となる教育活動を積極的に取り入れ、活躍する子どもの様子を学校 HP や元町だより、すぐーる等で伝えることで、保護者や地域の方々とのつながりを深めるとともに元町小学校の子どもたちを地域全体で組織的に育てていけるようにする。

【目指す教職員像について】

◎「子どもに温かく寄り添いながら一人一人を大切にしたいと思える教職員」

- ・生徒指導のポイント「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を組織的にかつ迅速に実践できるように、「子どもファースト」を意識しながら何か子どもの様子の変化等があればその都度生徒指導主任を軸に集まるなど情報を共有することで、教職員間での連携をより確実にする。
- ・子どもの表情や様子、成長の変化に日頃から敏感になり、話しやすい雰囲気づくりを心がけて子どもの思いや考えをじっくりと聞くとともに、教職員から子どもに寄り添う働きかけを常に意識する。

◎「子どもとともに過ごしながら自らも学んでいきたいと思える教職員」

- ・子どもの学びや学習経験、体験について教職員自身がきちんと把握することで、子どものキャリア形成を意識し、学級通信や学校 HP、すぐーる等で気づきや変化について共有・発信していく。
- ・「聞く力」「問題解決力」の意義や必要性について考え、校内での教育活動だけでなく、これらの力は社会に出てからでも大切な力であること認識しながら、自ら積極的に関わる姿勢で子どもと接する。

◎「コンプライアンスを意識しながら自らを高めていきたいと思える教職員」

- ・定期的にコンプライアンス研修や教職員ミーティングをするなどして、教職員自身のコンプライアンスを常に意識し、保護者・地域の信頼が失われないように教育公務員としての倫理観を向上させていく。
- ・自らの資質や指導力の向上を目指すとともに、「チーム元町」として学校経営を担う一員であることを全教職員が自覚し、互いに連携・連絡の共有を意識しながら組織として学校教育活動を進めていく。

【今年度の重点指導事項】

◎～したいと思える授業づくりや「主体的・対話的で深い学び」の充実

- ・子どもの問題意識や学習のめあてをきちんと認識できるように、日々の学習で子ども自身が主体的に差最後までやり遂げられるような授業づくりや単元構成を、カリマネの視点で考え工夫していく。
- ・子ども自身が主体的に学べるような単元計画・めあてのもと、iPad の活用だけでなく ICT やツール等を単元や授業の流れ、教科に応じて活用し、子どもが～したいと思えるような授業づくりを意識する。
- ・対話サイクルを中心に対話的な活動を活発にするとともに、学年実態に合わせて系統性を意識して取り組み、聴くことを大切にしたい聴き合い活動やペアやグループなど話し合う形態の工夫をより充実させる。

◎よりよい自分づくりを目指していくためのキャリアデザインと確かな見取り

- ・知・徳・体の視点で子ども自身がめあてを決めるキャリアデザインを実践し、どんな自分になりたいのかというキャリアの視点を大切にすることで、子ども・保護者と教職員との信頼関係をより深めていく。
- ・がんばってよかったという達成感につなげるために、子ども自身の思いで主体的に進めていく活動を尊重し、その様子や状況を学校と保護者・地域が連携しながらしっかりと見取りながら支援していく。
- ・生き方探究パスポートやキャリアデザインを積極的に活用し、子どもが自分らしく活躍するために必要な力を、日々の学校生活を通して何事にも積極的にチャレンジしながら身につけられるようにする。

◎子ども一人一人に温かく寄り添うことで「笑顔の登校・満足の下校」の実現

- ・本市の教育理念である「子ども一人一人を徹底的に大切にする」を教職員全員が意識し、子どもの見取りや支援を互いに共有しながら確実に実践し、子どもたちの楽しい学校生活を教職員で支えていく。
- ・「聴く力」「問題解決力」を高めるための具体的な取組を進め、学習面や対人関係などのさまざまな問題に対しても、子どもが学校への安心感と期待感、安全性を自覚できるように丁寧に対応する。
- ・学校運営協議会など地域や保護者、PTA からも本校の学校教育活動について幅広く意見をいただき、互いに協働しながら「チーム元町」としての学校づくりを進めていく。